



幹部候補生採用予定者（航空）部隊研修（奈良、浜松）

東京地本（本部長 竹本竜司 陸将補）は、10月9日（木）及び10日（金）、平成26年度航空自衛隊幹部候補生採用予定者に対する部隊研修を、航空自衛隊奈良基地及び浜松基地において、航空自衛隊幹部候補生学校及び第1航空団等の支援を受けて、実施した。

本研修は、東京地本の合格者のほか、東部方面管内の参加者を含めて19名が参加し、自衛隊の活動について理解を深めてもらうとともに、参加者の入隊意欲を向上させ、同期の絆を深めてもらうことを目的としている。

研修初日の幹部候補生学校では、副校長（三浦博安一等空佐）から講話があり、その後、授業風景及び資料館等見学、学生との夕食会を行い、心構え及び入校後の体験談等について懇談が行われた。その後京都市内で行われた懇親会においては、同期生の団結を深め、一緒に入校して頑張ろうという意気込みが見受けられた。

翌日は、航空自衛隊浜松広報館を見学し、午後は第1航空団において、航空自衛隊練習機（T-4）を見学した。その後、一般大学出身の先輩自衛官との懇談では、幹部任官後の仕事及び生活等について、積極的に意見交換が行われていた。

参加者からは、「入校する学校内の施設を見学できて入隊への期待や想像が膨らんだ」「入校前の不安を感じていたが、学生及び幹部自衛官との懇談を通して解消された」「入隊後の訓練やキャリアアップについて、理解を深めることができた」等、多くの成果を確認することができた。

東京地本は、来年4月に幹部候補生として入校した彼らが部隊で活躍することを期待するとともに、来年度の幹部候補生採用に向けて、各種部隊見学及び説明会を通して、より多くの受験対象者に自衛隊について理解を深めてもらい、質の高い人材確保に努めていく所存である。

「危機管理産業展2014」への出展

東京地本（本部長 竹本竜司 陸将補）は、10月15日（水）から10月17日（金）までの間、東京ビッグサイトで開催された「危機管理産業展2014」において、広報活動を実施した。

本産業展は、平成17年から毎年開催されており、今年のはべ約5万4,000人が来場した。東京地本は、本産業展内の「東京都パビリオン」において、御嶽山噴火災害や伊豆大島土砂災害、豪雪災害における活動状況のパネル展示やDVD放映及び非常用糧食を展示した。このほか、本年は初の試みとして援護課及び予備自衛官課と連携を図り、女性自衛官を説明員として配置し、退職自衛官の就職援護制度や予備自衛官等制度のパネル展示を実施して、多岐に渡る東京地本の業務を紹介した。

自衛隊ブースは、近年の自衛隊活動の影響からか大盛況であり、来場者からは、「退職自衛官を雇うにはどうしたら良いか」や、「一般人でも予備自衛官になれるのか」等の質問が多数あり、連携強化の成果が見られた。

初日には本部長も視察に訪れ、東京地本ブースの状況を確認するとともに、地本部員を激励した。

東京地本は今後も、本部長の要望事項でもある常在戦場・任務完遂をモットーに、様々な機会を捉えて防衛意識の高揚を図っていく所存である。

